

# 交通バリアフリーニュース



## 四国における交通バリアフリーの現状(平成19年度)

四国運輸局では、交通事業者等から提出された移動等円滑化実績等報告書をもとに、管内の旅客施設や車両等におけるバリアフリー化の進捗状況を把握しました。

現在、四国では、1日当たりの平均的な利用者数が5千人以上の旅客施設については、自治体の基本構想により計画的に整備が進められています。一方、利用者数が5千人未満の駅については、鉄軌道事業者と国や地方自治体との連携等によりバリアフリー化が進んでいますが、全国に比べると十分ではありません。

また、車両等については、乗合バス車両や旅客船のバリアフリー化が進んでいますが、鉄軌道車両については、なかなか進まない状況にあります。

バリアフリー化を推進するために、国は、各種補助制度により、交通事業者を支援しています。



ことでん太田駅(点字ブロック)



ことでん太田駅(スロープ)



伊予鉄古泉駅(スロープ)

### 平成19年度中にバリアフリー化が進んだ主な鉄軌道駅、停留場(新設を含む)

- J R.....高知駅(高架による新設)
- 入明駅(高架による新設)
- 円行寺口駅(高架による新設)
- 小村神社前(新設)
- 松山駅(エレベーター)
- ことでん.....水田駅(高架による新設)
- 瓦町駅(オストメイト対応型)
- 太田駅(スロープ、ブロック)
- 古高松駅(スロープ、ブロック)
- 伊予鉄.....横河原駅(スロープ)
- 牛淵駅(スロープ)
- 古泉駅(スロープ)

### 平成19年度に補助制度を活用して整備された旅客施設及び車両等

- JR松山駅(エレベーター)
- ノンステップバス 18両
- ワンステップバス 2両



ノンステップバス(徳バス)

## 四国における交通バリアフリー化の進捗状況(平成20年3月31日現在)

### 鉄軌道駅のバリアフリー化状況

事業者名	駅名	段差への対応	視覚障害者誘導用ブロック	障害者対応トイレ	転落防止設備
四国旅客鉄道(株)	高松駅				
	坂出駅			×	
	丸亀駅				×
	今治駅	×		×	
	松山駅				
	徳島駅				×
	高知駅				
高松琴平電気鉄道(株)	高松築港駅		×	×	×
	片原町駅	×	×	×	×
	瓦町駅				
伊予鉄道(株)	松山市駅			×	
	大街道電停			-	
	松山市駅前電停			-	
主要駅(13駅)に占める適合駅数		11	11	6	9
全駅(491駅)に占める適合駅数		91	174	12	207

主要駅とは、1日当たりの平均的な利用者が5,000人以上の駅で、四国では上表の13駅が該当する。  
 表中の「○」は基準適合、「×」は基準不適合、「-」は便所設備のないことを示す。また、「」は平成19年度の改善箇所を示す。

### バスターミナルのバリアフリー化状況

ターミナル総数	段差への対応	視覚障害者誘導用ブロック	障害者対応トイレ
3	3	2	-

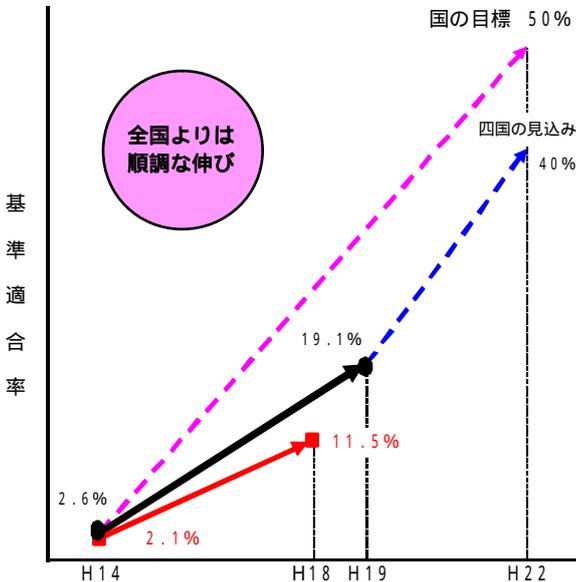
四国のバスターミナルは、1日当たりの平均的な利用者が1,000人未満の小規模な施設しかない。

### 旅客船ターミナルのバリアフリー化状況

ターミナル総数	段差への対応	視覚障害者誘導用ブロック	障害者対応トイレ
106	47	10	7

四国の旅客船ターミナルは、1日当たりの平均的な利用者が5,000人未満の中小施設で占められている。

### 旅客船のバリアフリー化状況



黒色は  
四国の実績数値  
赤色は  
全国の実績数値

四国における1日当たりの平均的な利用者が5,000人以上の旅客施設は、左表の鉄軌道駅の13駅であり、そのバリアフリー化の状況は、左表のとおりです。

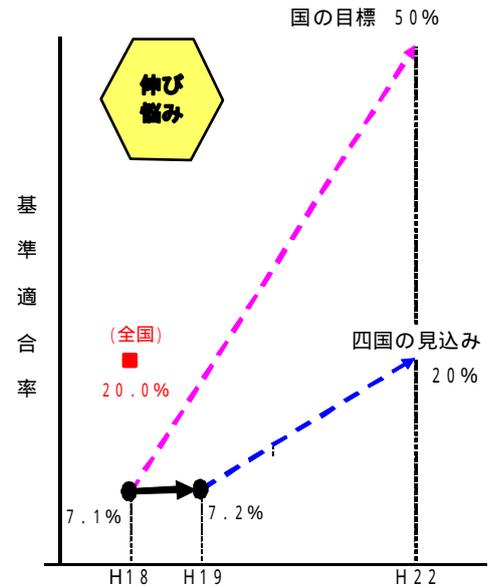
その他の利用者が5,000人未満の旅客施設のバリアフリー化状況はそれぞれの表のとおりです。

また、車両等の進捗状況は、下記のグラフのとおりです。



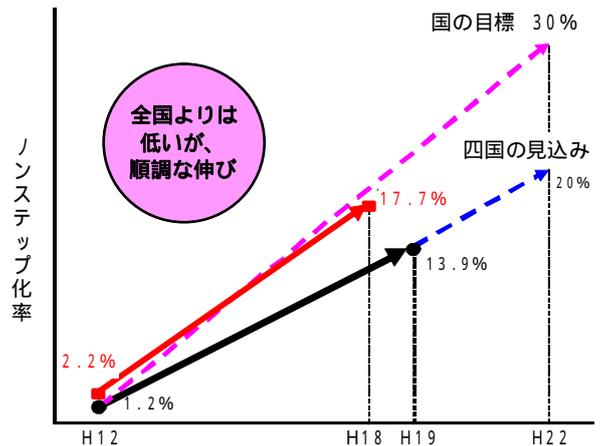
第1こくさい丸(国際フェリー)

### 鉄・軌道車両のバリアフリー化状況



バリアフリー新法に基づく基本方針により、平成18年度から新基準による集計となっている。

### 乗合バスのバリアフリー化状況



# 「JR四国」のバリアフリーへの取り組み状況

四国旅客鉄道株式会社

## 1) 土讃線「新・高知駅」の概要

平成20年2月26日(火)、高知駅を中心とするJR土讃線約4.1kmを高架化する「高知駅付近高架化事業」により、土讃線 高知駅・入明駅・円行寺口駅の3駅が高架上の新しい駅として開業いたしました。高知駅は当社5番目となる乗降人員約1万人(1日あたり)の駅で、お客様には高知の陸の玄関口として、通勤・通学の足としてご利用いただいています。

高知駅付近高架化事業の結果、11ヶ所の踏切が撤去され市内交通の円滑化が図られ安全性が向上しました。また、この高架化工事は、高架区間全体のデザインを一体的にまとめるために景観設計を取り入れていることが大きな特徴となっています。

高架上の新高知駅の整備にあたっては、機能性や利便性においても当社初の設備を配置し、あらゆるお客様の利便性に配慮した設備と南国らしい開放感を演出したインテリア空間により、コンコースと駅前広場が一体化した巨大なバリアフリーの公共空間が生み出されただけでなく、雨に濡れることなく他交通機関との乗換えができる、交通結節拠点が整備されることとなりました。

バリアフリー設備の設置計画にあたりましては、高知県が主催するバリアフリーモニター会議に積極的に参画し、委員の方との意見交換・現地確認等を踏まえて検討を行いました。その結果、エレベーターの大型化等への計画変更、多目的トイレについても、改札の内・外に1ヶ所ずつ設け、お湯の出るオストメイト設備と折りたたみ式の多目的シートを併設する等のより利用者の立場にたったバリアフリー化が図れました。



南側から見た高知駅  
・現在南側駅前 広場を整備中



ホーム  
・2面4線の7両対応ホーム



ホーム待合室  
・空調設備を備えたホーム待合室を計5箇所設置



自動改札機(当社初)  
・通常タイプ4通路と巾広タイプ1通路の自動改札機を計5通路設置



指定席券売機(当社初)  
・新幹線や在来線の指定席や定期券が購入可能/支払いはクレジットカードが利用可能/  
/領収書が発行可能/電話で予約した「5489サービス」での予約済みきっぷの受取りが可能



上り下りエスカレーター(当社初)  
・80cm巾エスカレーターを計4基設置



エレベーター  
・15人乗りエレベーターを計2基設置



総合点字案内板  
・センサーで案内板の位置を音声で案内



### 授乳室

・赤ちゃんをお連れになっているお客様用に  
給湯設備を備えた授乳室を設置



### トイレ入口

・トイレ入口の点字案内板の上部にある  
天井スピーカーから川のせせらぎ音が流れ、  
人感センサーの感知により点字案内板の位置  
及びトイレのレイアウトを音声で案内



### 身体障害者用トイレ

・お湯の出るオストメイト設備  
/折りたたみ式多目的シート  
/ヒーター付き便座とシャワー洗浄装置  
などを装備



### 入明駅ホーム

・1面1線の4両対応ホーム



### 円行寺口駅自動券売機

・バリアフリー対応の自動券売機を設置

## 2) 5千人以上の主要駅施設の取組み

平成19年度に、当社3番目となる乗降人員約1万5千人(1日あたり)の予讃線 松山駅の跨線橋にエレベーターを設置し、改札口及び1番のりばと2・3番のりばを結ぶ経路の段差解消が図られました。また、お客様からのご要望により、坂出駅身障者便所内にベビーベッドを設置しました。

平成20年度に、当社7番目となる乗降人員約5千人(1日あたり)の予讃線 今治駅にエレベーターや誘導チャイム等のバリアフリー設備を整備することにより、当社の乗降人員5千人以上の7駅全てにおいて段差が解消されることとなります。



松山駅エレベーター

・雨に濡れないように改札口とエレベーター出入口までの経路に屋根を設置

## 3) 5千人未満の駅施設の取組み

平成19年度に、自治体のご協力により、土讃線 小村神社前駅を新設しました。バリアフリーに対応したスロープや自動券売機、列車の接近を自動で表示・放送する装置を設置しています。

今後もお客様からのご要望により、利用しやすい駅を整備してまいります。



小村神社前駅自動きっぷうりば

・バリアフリー対応の自動券売機を設置

#### 4) 車両の取組み

1500型一般気動車を平成18年度に8両、平成20年度に7両導入しました。この車両は、バリアフリーの設備として、車椅子対応トイレや車椅子スペースを設置するとともに、車両床面高さを低くすることによる出入口のステップレス化をはじめ、扉開閉チャイムや停車駅表示装置の設置を行っています。また、転換クロスシートと補助椅子を当社の一般形気動車として始めて採用し、吊革の増設や腰掛に握り棒を設置するなど、よりお客様への安全性も考慮しています。

また、既存車両においても、車椅子対応トイレと車椅子スペースの設置を行うなど、バリアフリー法に適合した構造への改良も進めています。



1500型一般気動車



車椅子対応トイレ



優先座席と車椅子スペース

## 消費者行政インタビュー

四国運輸局では、消費者からの問い合わせや消費者行政上の課題を調査し、その結果を行政に役立てていくことを目的として公共交通機関をはじめとして運輸関係の事業に従事している方を対象にインタビューを行っています。

今回は、私たちの身近な乗り物である自動車のナンバープレートについての問い合わせも多いことから、その製作会社にお邪魔して、お話しを伺いました。 インタビュー実施日: H 20 . 8 . 20(水)



香川自動車ナンバー(有)  
前社長 平松 力 さん

### ～ナンバープレートはどんな風に作られているの？～



機械をチェックする現社長 仁さん



いつごろから？

お話しを伺ったのは現在の社長さんの父君、平松 力さんです。自動車のナンバープレートを作るようになったのは、力さんのお父さんが戦前、県庁ヘストブなどの金属製品を納入していた関係で、当時の県からナンバープレートの作成の依頼があった、その頃からだそうです。

息子の力さんも一緒にナンバープレートを作る手伝いをしていたことがきっかけで、戦後ナンバープレートの製作の委託を受け事業を行ってきて、現在は力さんの息子さんの仁さんが事業を引き継いでいます。



手作業で作っているのですか

以前はナンバープレートは鉄でできていましたが、昭和60年からアルミに変わりました。鉄で作っていた時に比べてアルミで作るようになってからはコンピュータを導入して自動化を進め、省力化が進んでいます。

平成10年からは四国でも希望番号制が導入されたため、番号が必ずしも順番に並んでいないので、コンピュータにより完全に自動化された機械でナンバープレートを効率的に製作するようになりました。

ナンバープレートは毎朝午前中に製作し、午後には支局から交付の委託を受けている整備振興会へ納入しています。



コンピュータで番号を指示します

このナンバー製作会社の平松さんは、全国各地のナンバー製作会社へ見学に行くなどして研究していましたが、香川県でナンバープレートを作成する機械を製作している会社の社長さんと協力して、現在のような自動化された機械を開発したそうです。

こうした経験から、平松さんは「技術者は良いものを早く作ること」という信念でナンバープレートの製作機械を生み出してきたそうです。

そういう訳で、コンピュータを組み込んだ複雑な機械の特許も申請しないで、こつこつとナンバープレートの製作に打ち込んできたのだそうです。



精密機械でもチェックは必要



製作する番号を再チェック

#### ナンバープレートは誰でも作れるの？

道路運送車両法という法律の規定でナンバープレート(「自動車番号標」というのが正式な名称です)を製作する事が出来るのは国土交通大臣(地方運輸局長)の指定を受けた事業者に限られています。

登録部門の職員や経験者はご存じと思いますが、ナンバープレートの規格には細かい寸法や材質の規定があって、寸分の狂いもなく正確に製作することが必要だからです。

## 必見！！ナンバープレートの出来るまで



ガイドに原板をセットする



パソコンで番号を指示



文字・数字の金型が並ぶ



文字などに塗色するレーン



表面はまだ塗色がされていない



プレスされたナンバープレート



塗色は何度も重ねて



スタッカーに乗せて、塗料を自然乾燥させる



ガス釜でスタッカーに乗せたプレートを焼き付けて完成



振興会の窓口で申請者に交付

### 【インタビュー後記】

インタビュー当日に会社を訪問すると、まだ夏の暑い日差しが残る中、平松 力さんが前の道路まで出て来て、出迎えていただき、平松さんのお人柄がうかがえました。

ナンバープレートの製作には大変気を使う作業であり、ホコリなどの侵入によっても不合格品ができるため、場内の入り口には防塵カーテンを設置するなどの工夫がされていました。

多忙な作業中で現社長の仁さんからは、短時間しかお話を伺うことが出来ませんでしたが、作業をしながらのインタビューとなってしまい、ご迷惑をおかけしました。今回のインタビューは、消費者行政課だけでなく、支局の窓口へも問い合わせのあるナンバープレートの製作過程を少しでもご紹介できればと思い、企画しました。

なお、残念ながら、作業の支障になるおそれがあるので、一般の方の見学は受け付けていないとのことです。ご理解を頂きたいと思います。

# バリアフリー教室、バスの乗り方教室とあわせて開催

～ 藍住町立藍住東小学校（徳島）・新居浜市立宮西小学校（愛媛）～

## 藍住町立藍住東小学校

10月1日（水）藍住東小学校（徳島県板野郡藍住町）において、「バリアフリー教室」「バスの乗り方教室」を開催しました。

教室には藍住東小学校4年生60名が参加。徳島バス（株）の協力で、校内に低床バス車両を持ち込み、交差点などで気をつけなければならない車の内輪差や整理券の取り方から運賃表の見方など、バスの乗り方について勉強しました。

また、バリアフリーに対応した低床バス車両の特徴を学習したり、低床バスに乗降する車いす利用者の介助の仕方を間近で見学しました。



講師が内輪差についてわかりやすく説明



バスの車内で運賃表などを実際に見学して乗り方を勉強

藍住町社会福祉協議会や凌雲福祉会の講師から、車いす利用者の介助方法を教わったり、高齢者の疑似体験のためのシニアポーズを着用して実際にバスに乗降するなどの介助体験を行いました。

参加した児童は、講師の話の聞いたり、実際に介助体験をすることによって、相手を思いやり、相手の立場にたって行動することの大切さを学びました。



シニアポーズを装着した児童を介助しながらバスの乗降



コースに設定された段差を車いすで慎重に通過

**新居浜市立宮西小学校**

10月3日(金)、四国運輸局と愛媛運輸支局は、宮西小学校(新居浜市)において「バリアフリー教室」「バスの乗り方教室」を開催しました。

教室には宮西小学校4年生40名が参加。最初に同小学校の運動場で瀬戸内運輸(株)の協力を得て、低床型バスを実際に走らせて内輪差実験を見学し、大型自動車には死角が多いことを自転車やコーンを置いて体験しました。

次に講師の先生から視覚障害者の介助方法の指導を受けたあと、アイマスクを使用してバスに乗ったり降りたりして、実際に介助体験を行いました。バスによる最後は乗組員の操作による車いす利用者の乗降を見学しました。



講師がバスの乗り方を説明



アイマスクを使用したバスの乗降

その後は、場所を体育館に移し、車いす利用者の講師の方の指導で、運動用マットや青竹をバリアに見立ててコースを設定し、車いすを使用した介助体験を行いました。

体験後の意見交換会では、講師の先生から貴重な実体験の話を知ったり、児童からの思いがけない質問が飛び出すなど、大変有意義な時間となりました。

参加した児童らは「今までは恥ずかしかかったけれど、今日の授業で障害のある人は大変、困っていることが多いことが分かった」「障害のある人を見かけたら、素直な気持ちで声をかけたい」と「心のバリアフリー」への理解を一層深める授業となったようでした。



コースの段差を越えて車いすの介助体験



最後に校長先生からの講評

## 四国地方整備局・四国運輸局 バリアフリー連絡会議を開催しました

平成20年10月15日(水)、高松サポート合同庁舎会議室において、「四国地方整備局・四国運輸局バリアフリー連絡会議」を開催しました。

この会議は、バリアフリー新法の施行に伴い、運輸局と整備局との連携を図るために、担当者レベルでの情報交換や意見交換を行うための会議で、昨年度から開催しています。

今回の会議では、現在実施されているバリアフリー基本構想の進捗状況などの情報交換を行いました。



私どものバリアフリー教室、バスの乗り方教室は、自治体、各地の社会福祉協議会、講師としてご参加いただく障害者の方、公共交通事業者等多数の方から後援、協力をいただいております。今回開催しました教室では次のとおりです。

10月1日開催バリアフリー教室・バスの乗り方教室(藍住町立藍住東小学校)

後援:徳島県、藍住町、藍住町教育委員会

協力:徳島バス株式会社、(社)藍住町社会福祉協議会、(社)凌雲福祉会

10月3日開催バリアフリー教室・バスの乗り方教室(新居浜市立宮西小学校)

共催:(社)愛媛県バス協会

後援:愛媛県、新居浜市、新居浜市教育委員会

協力:瀬戸内運輸株式会社、(社)新居浜市社会福祉協議会

ご協力ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

みなさんからのご意見・ご投稿をお待ちしています。バリアフリーに関するものならなんでも結構です。四国運輸局消費者行政課まで、FAXまたはメールでお寄せ下さい。

〒760-0064

高松市朝日新町1-30

電話 087(825)1174

FAX 087(822)3412

Email: Shikoku-shohisha@skt.mlit.go.jp



国土交通省

このニュースは交通バリアフリー関係の話題を中心に、4県自治体のバリアフリー関係担当部署、交通事業者及び地域のNPOの方にお送りしています。

このニュースの配信につきまして、配信先の追加、変更や停止をご希望される方は、お手数ですが本メールの返信機能でご連絡ください。

四国運輸局ホームページもご覧ください

<http://www.skt.mlit.go.jp/>